

## 木村展の楽しみ方をいろいろな人に聞く「木村忠太展の歩き方」③

テーブルスタイリストで長年の木村忠太ファン、堀井和子さん。



《カブリ》

**「グレーの車が素敵です。いえ、グレーではないのかもしれませんが。絵具を塗り重ねて、車体のメタルの質感も、走るスピードも、走っている時間帯も、色にのせてあるような気がします。」**

…木村さんの愛車がグレーだったそうですよ。愛車を描いているのかも。(学芸員)

**「絵の右手は樹木とそれを囲む庭でしょうか。黄緑の中でもフランスの色見本 DIC F296(ヴェール・サファリー)に光をあてたような色が、心に迫ってきます。」**

…展覧会ポスターに使ったフランスの伝統色「ヴェール・シャルトルーズ」も、堀井さんの著書『2日目のプティ・デジュネ』で教えていただきました。(学芸員)



《クロ・サン・ピエール》(パステル)

…デッサンではどの作品が一番お気に入りですか？(お客様)

**「1つでなく、デッサン全てをぐるっと見回した時の、鮮やかな色彩に心惹かれます。木村忠太さんの絵を見てみると、ヴァカンスの、旅の、ある瞬間の光や風がふと近くに感じられ、絵が映画のように動き始めるのです。」**



《プロヴァンス地方の家》

**「落ちついた色が、秋や春を思わせます。秋から冬の乾いた北風、ミストラルを思い出させます。」**

…若葉保育園の男の子と同じご感想でびっくりしました！(学芸員)



《ポン・ヌフ》

**「パリの空気が本当に伝わってきます。有名な観光名所だからでなく、雰囲気ですぐパリとわかる。外国語の会話も、単語一つ一つでなく全体のニュアンスをつかんでいる。木村さんの絵もニュアンスに富んでいて、説明なしに心に届くのだと思います。」**